

シノハラ防災  
エコアクション 21  
環境活動レポート

2017年度

(2017年7月～2018年6月)

エコ企業

シノハラ防災株式会社

〒101-0047 東京都千代田区内神田 2-7-10

TEL 03-3252-7547 FAX 03-3252-6560

## I. 事業の概要

- 1 事業所名 シノハラ防災株式会社
- 2 代表者 代表取締役社長 篠原 公則
- 3 所在地 〒101-0047 東京都千代田区内神田 2-7-10  
TEL 03-3252-7547 FAX 03-3252-6560
- 4 関連事業所 武蔵野営業所  
〒180-0003 東京都武蔵野市吉祥寺南町 2-23-19  
TEL 0422-48-5636 FAX 0422-48-5648
- 5 環境管理責任者 篠原 隆宏
- 6 事業内容
  - (1) 消火・警報・避難設備等に関する各種商品、設備の販売、施工およびメンテナンス
  - (2) その他、上記に関連する一切の事業
- 7 事業の規模
  - (1) 設立 1967年(昭和42年)5月20日 (創業1946年11月)
  - (2) 資本金 3,000万円 (3) 事業所面積 212㎡

## II. 対象範囲

- 1 認証・登録範囲  
消火・警報・避難設備等に関する各種商品、設備の販売、施工およびメンテナンス
- 2 レポート  
対象期間…2017年7月1日から2018年6月30日  
レポート発行日…2018年8月31日

## III. 環境方針

- 1 環境理念  
当社は、消防、防災の事業を通して、地球と地域の環境の保全に貢献します。
- 2 環境方針
  - (1) 環境に配慮した経営を実現するために、環境経営システムを構築し、継続的に維持し改善します。
  - (2) 環境活動の取組みにより次の環境負荷を軽減します。
    - a. エネルギー消費の削減により二酸化炭素の排出削減
      - ・消費電力
      - ・ガソリン
    - b. 排出量の削減
      - ・廃棄物排出量の適正化
      - ・排水量（もしくは水使用量）の適正化
      - ・再使用・再資源化の推進
    - c. 廃消火器のリサイクル促進
    - d. 環境対応事務用消耗品の購入
  - (3) 環境に関する法令、規則、協定を遵守します。
- 3 取組への自己チェック  
環境への負荷ならびに取組の自己チェックを行い、その結果の概要を「環境活動レポート」とし公表し、持続して改善を行います。

#### IV. 環境目標と活動計画

当社の環境活動の取組み課題は次の①～⑤の5項目とし、目標値は全社目標として年度ごとに設定する。

(結果はV.次年度以後の目標値はVIに示す)

##### 1. 取組み課題と行動計画

取組み課題	活動計画		
	計測項目	目標達成のためにすべきこと	責任者
① 二酸化炭素の排出量の削減	電力使用量 排出係数東京電力 <b>0.531</b> kg-CO <sub>2</sub> /kwh	i) 事務機器、照明の電源の適切管理 ★不使用時は電源 OFF と蛍光灯の取り外し ii) 扇風機の使用で冷暖房の過剰使用をしない。 ★冷房：28℃ 暖房：20℃	Eco 管責
	ガソリン使用量	i) エコ運転の励行 (アイドリングストップ) ii) 公共交通機関の使用	
② 廃棄物等排出量の適正化	循環資源量(再資源化、再利用可能量)	i) 無駄のない作業の実行で施工時の電線類の適切使用。 ii) コピー紙の裏面使用、両面プリント ★ 社内文書は裏面使用★点検報告書の両面プリント iii) 使用済段ボール類の再資源化 iv) 金属類、Ni-Cd 電池のリサイクル促進 v) 廃棄物の分別による再資源化 vi) 消火器および薬剤のリサイクル(日本消火器工業会による広域認定制度の活用)	
③ 総排水量の適正化	排水量(水使用量)	i) 垂れ流しをしない ii) 節水具の使用	
④ 廃消火器のリサイクル促進		廃消火器・薬剤の受取りの全数をリサイクルシステムでリサイクルする	
⑤ 環境対応事務消耗品の購入		i) 環境に配慮した製品の購入 事務用品のグリーン商品比率 50%以上 ii) 無駄な物を購入しない	

V. 環境目標の実績

1 実績 (全社) (環境への負荷の自己チェックの取りまとめ表による)

環境負荷	対象項目	第51期実績 16.7~17.6	第52期目標 17.7~18.6	第52期実績 17.7~18.6	実績前年 対比	第52期 実績/目標	目標達成 状況	
二酸化炭素	電力① (kWh)	13,414	未設定	13,322	99 %	—	—	
	燃料⑤ (L)	4,047	未設定	4,231	105 %	—	—	
	電力、燃料①⑤ (kg-CO <sub>2</sub> )	16,519	16,000	16,898	102 %	106 %	×	
廃棄物	再資源化 可能量	一般廃棄物② (kg)	1,696	1,700	1,765	104 %	104 %	—
	産業廃棄物⑥ (kg)	1,050	1,200	802	76 %	67 %	—	
	再資源化可能量 計 (kg)	2,746	2,900	2,567	93 %	95 %	—	
	再資源化 不可量	一般廃棄物② (kg)	112	115	220	197 %	191 %	—
	産業廃棄物⑥ (kg)	512	500	568	111 %	114 %	—	
	再資源化不可量 計 (kg)	624	615	787	126 %	127 %	—	
廃棄物 総排出量 (kg)	3,370	3,515	3,354	100 %	95 %	○		
排水	水使用量③ (m <sup>3</sup> )	122	125	121	99 %	97 %	○	
廃消火器リサイクル	引取り本数 / 引渡し本数	100%	100%	100%	/	/	○	
環境対応事務消耗品	事務用品におけるグリーン商品 購買率	55.2%	50 %	52.7%	95%	110%	○	

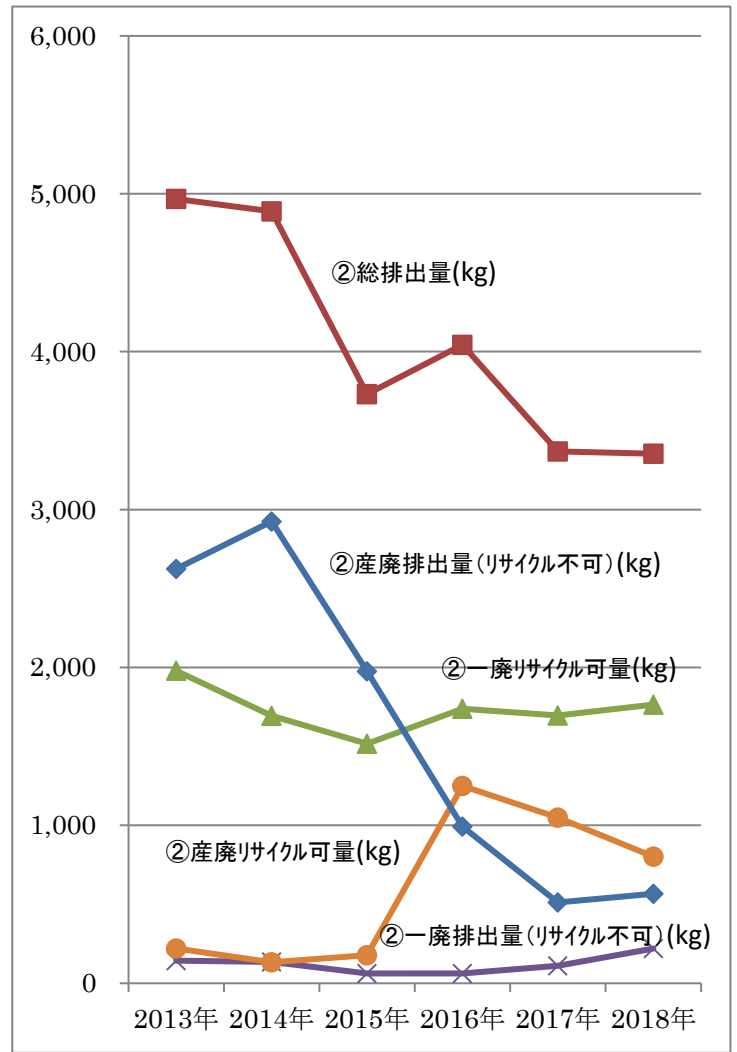
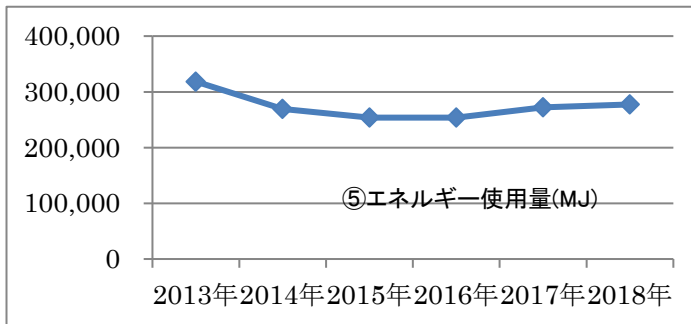
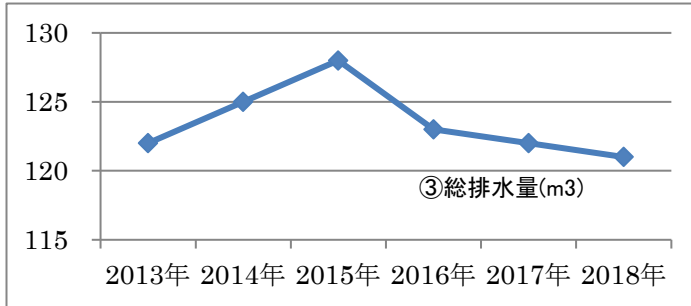
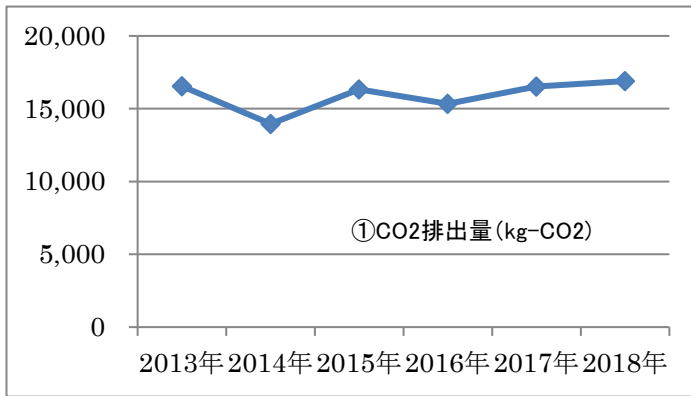
※実績の目標達成の評価基準について

対目標比率で105%以下を達成と評価する。(事務用品に関しては95%以上とする)

廃棄物に関しては、廃棄方法の変更で大きく変動するため、項目ごとの評価は行わず、総量で評価する。

目標達成とならなかった項目について、詳細の検証を行い、対策を検討する。

		第47期	第48期	第49期	第50期	第51期	第52期
量		2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
①	CO <sub>2</sub> 排出量(kg-CO <sub>2</sub> )	16,555	13,960	16,330	15,330	16,519	16,898
②	一廃リサイクル可量(kg)	1,979	1,694	1,517	1,738	1,696	1,765
	産廃リサイクル可量(kg)	220	133	177	1,250	1,050	802
	再資源化可能量 計	2,199	1,827	1,694	2,988	2,746	2,567
	一廃排出量(リサイクル不可)(kg)	143	136	63	62	112	220
	産廃排出量(リサイクル不可)(kg)	2,625	2,925	1,975	993	512	568
	再資源化不可量 計	2,768	3,061	2,038	1,055	623	787
	廃棄物総排出量	4,967	4,888	3,732	4,043	3,369	3,354
③	総排水量(m <sup>3</sup> )	122	125	128	123	122	121
④	化学物質使用量(kg)	0	0	0	0	0	0
⑤	エネルギー使用量(MJ)	318,361	269,396	253,737	253,737	271,896	277,358



## 2 環境への取組みの自己チェックの結果

取組においては昨年からの継続実施をしたことにより、評価点は309ポイントとなった。

## VI. 結果と評価および次年度の取組内容

自動車の走行距離は前年と同程度だが、車両の入れ替え（軽バン→軽ワゴン）により、平均燃費が悪くなった。廃棄物については、引き続き分別及びリサイクルを継続したため、総量に関しては、微減となった。リサイクルと非リサイクルの区分が変更となったため、再資源化可能量が減少してしまった。第53期の目標については引き続き、節電と自動車のEco運転に努める。車両の入れ替えの計画があるが、燃費の大幅な変更は無いと思われるため、二酸化炭素排出量は第52期の実績をもとに目標値を修正する。産業廃棄物総量は現状維持とするが、分別を確実にいりリサイクル量を増やす。第54期以後については、第53期を基準とし、再資源化可能な廃棄物は業況の上昇を考慮しつつも、同程度の目標設定をした。

### 次期目標値

環境負荷		対象項目	第53期目標 18.7～19.6	2年先 第54期目標 19.7～20.6	3年先 第55期目標 20.7～21.6
二酸化炭素		電力、燃料①⑤	17,000 Kg-CO <sup>2</sup>	17,000 Kg-CO <sup>2</sup>	17,000 Kg-CO <sup>2</sup>
廃棄物	再資源化可能量	一般廃棄物②	1,700 kg	1,700 kg	1,800 kg
		産業廃棄物⑥	1,000 kg	1,200 kg	1,300 kg
	再資源化可能量 計		2,700 kg	2,900 kg	3,100 kg
	再資源化不可量	一般廃棄物②	150 kg	150 kg	150 kg
		産業廃棄物⑥	550 kg	550 kg	550 kg
	再資源化不可量 計		700 kg	615 kg	625 kg
廃棄物 総排出量		3,400 kg	3,515 kg	3,725 kg	
排水	水使用量③	125 m <sup>3</sup>	125 m <sup>3</sup>	125 m <sup>3</sup>	
廃消火器	引取量④	100 %	100 %	100 %	
環境対応事務用品	購入比率⑤	50 %	50 %	50 %	

## VII. 環境関連法規の遵守および違反、訴訟

1. 当社の直接関係する主な環境関連法規は次のとおりである。

- ① 消防法および関係法令
- ② 廃棄物の処理及び清掃に関する法律および関係法令、条例
- ③ 日本消火器工業会による廃消火器リサイクル「特定窓口業務運用マニュアル」

なお、「関連法規の取りまとめ及びチェックリスト」により遵守されている事を確認した。

2. 違反、訴訟等

2018年6月30日まで、過去3年間に渡り環境関連の違反、訴訟及び関係機関からの指摘はない。

## VIII. 社長による総合評価と見直し

エコアクション 21 を導入してから、10 年経過し Eco 意識が浸透し、排出量の削減量が頭打ちになってきている。

二酸化炭素の排出量は、前期と走行距離は、ほぼ変わらなかったが、車両入替による燃費の変動により目標が達成できなかった。53 期も車両入替を予定するが、同等車種への入替で燃費の変動はほぼないと思われる。走行距離は現場所在地によるため削減できない要素もあるが、効率よく行動し、Eco 運転により排出量を抑制する。52 期の実績維持を目標とし、目標値を修正する。廃棄物の分別の意識が浸透したためか、廃棄物総排出量は減少している。53 期は人員が増え、業況の上昇をめざすが、分別を徹底し排出量の抑制に努める。

「私達は、お客様の期待を上回る会社を目指し、更なる歴史を皆で造ります。」を年間目標とし、創業 70 周年の歴史に恥じぬよう、売上目標・Eco 目標の達成を目指す。

2018 年 8 月 31 日

シノハラ防災株式会社

代表取締役社長 篠原 公則

連絡先 シノハラ防災株式会社

環境管理責任者 篠原 隆宏

東京都千代田区内神田 2-7-10

TEL 03-3252-7547 FAX 03-3252-6560